

# 地球雑感—所長就任ご挨拶にかえて

地質調査所長 小川克郎

20年近く昔、春の終わりに、ノルウェーの首都オスロからフィヨルドの町ベルゲンに飛んだ時のことです。隣の席のロンドンから観光に来た大学生のお嬢さんと話をしていると、突然、窓の外を指差して驚きの表情をしたのです。一瞬エンジンが火でも吹いたのかとぎょっとして窓の外に目をやると、雲の合間に静かなスカンジナビアの山々が見えるだけでした。不審に思ってお嬢さんに視線を返すと、「山のあの白い線は何ですか?」と問うのです。もう一度山を丹念に見ると、無数の細くて長い白い直線が山波に刻まれているではありませんか。しばらく考えて、「あれは雪ですね。」「えっ? 雪? でも何故あんなふうに直線的に積もってるんですか?」「貴女はナイアガラの滝を見たことがありますか?」「いいえ、写真でしか……」「貴女は知らないかもしれないけれど、スカンジナビアではナイアガラの滝のように、あるいはカーテンのように列になって雪は降るのです」「えっ?」。最近の日本の若い娘ならここで「ウッソー」と悲鳴を上げるところでしょうが、この英国のお嬢さんは育ちが良いのかただ目を丸くしているだけででした。冗談が過ぎたかと反省して、何故あのように雪が線状に残るかを科学的に説明してあげました。彼女は山波をカメラに記録してから、地球は美しくとても面白いと繰り返していました。この時のスカンジナビアの山々の風景は忘れようがありません。

私達が地球を研究の対象として選んだ理由は人それぞれでしょうが、恐らく多くの人に地球とその自然への単純な驚きと好奇心があったのだと思います。多忙な毎日の仕事に埋没して初心を忘れかけていた私に初心を思い起こしてくれたこの英国のお嬢さんには感謝しなければと思いました。

この一年を振り返ってみても、「地球」に係わるニュースが毎日のようにテレビや新聞を賑わしております。湾岸戦争では、石油が依然として戦争の火種であると同時に環境破壊の源でもあることが改めて認識されました。また、雲仙岳やピナツポ山の火山噴火は人間の知力を遙に越えた自然の底力を私達に思い知らせてくれました。地球科学の学徒である私達の究極の任務は、ある時は美しい、ある時はとてつもなく恐ろしい、そして私達が逃れ様もなくそこに置かれた「地球」とどのように付き合



小川 克郎 所長

っていったら良いのかを学んで行くことではないでしょうか? そのためには地球という自然の営みを知り、それを土台として資源や環境といった私達が暮らして行くには欠かすことのできない生活の場を築いてゆくお手伝いをするのが私達の役目だと思っております。専門家としては、地球という自然の驚異に驚いてばかりはいられません。自然の営みの法則性を解明し(認識の科学)、それに基づいて将来に備える(応用の科学・技術)という大事な務めがあるからです。地質調査所では、こうした務めを分析して研究業務を3本の支柱、すなわち

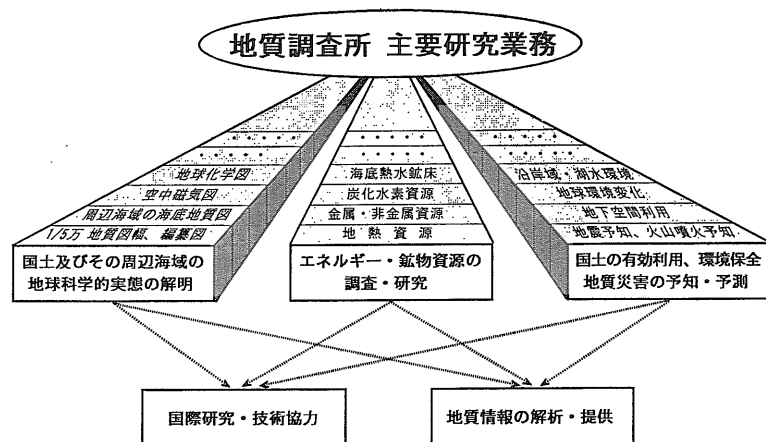
- 1) 国土及びその周辺海域の地球科学的実態解明
- 2) エネルギー・鉱物資源の調査・研究
- 3) 国土の有効利用、環境保全、地質災害の予知・予測

と2本の支柱、すなわち

- 4) 国際研究・技術協力
- 5) 地質情報の解析・提供

とに分類しています(図)。

それぞれに、認識の科学と応用の科学・技術が含まれていますが、大別すれば、前者は1) 後者は2), 3) に相当すると言えましょう。激しく変化化する社会の中で、私達の社会に対する役割もまた激しく変化するに違いありません。上に記したような私達の任務も折々に見つめ直して行きたいと思っております。



地質ニュースは、幸いにも読者の厚いご支援をえて、1953年（昭和28年）の発刊以来40年に近い歴史を刻むことができました。今では、専門家から高校生まで幅広い方々に読んでいただいております。地質調査所の研究成果は政府の諸施策を通して、また産業界の活動を通して皆様方に役立てていただいておりますが、これに加えて、直接に皆様方のお役に立つよう務めることも大変重要だと思っています。地質標本館や地質ニュースはこのような交流の場の一つとしてとても貴重な存在です。今後も、驚きと好奇心に満ちた初心を忘れることなく、また同時に驚きを科学的に観察する専門家の眼をますます研ぎすまして、研究成果や折々の話題を皆様方にお伝えしてゆきたいと思っております。とりわけ、単に地質調査所の広報誌としてだけでなく、広く所外にも開かれた日本の

地球科学の情報誌としての役割を果たして行きたいと願っております。地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など色々な方面の寄稿を歓迎いたします。また、例えば、「学会掲示板」には、すでに多方面からの掲載依頼が寄せられておりますが、この欄も一層充実させて皆様の掲示板に行きたいと考えております。本誌に対するご希望・ご意見は「読者の欄」に掲載させていただきますので、積極的にご意見をお寄せください。最近、編集体制も充実させ、

よりよい雑誌にいたすよう努力してきたつもりですが、今後も、読者諸賢の一層のご支援とご協力をお願いしたいと思います。

さて、申し遅れましたが、6月14日に所長が交代いたしました。石原舜三所長は工業技術院長に就任され、通商産業省（霞が関）に移りました（写真は地質調査所での歓送風景です）。これに伴い、小川が所長に、佐藤壮郎が次長に就任いたしました。石原院長は1956年（昭和31年）地質調査所に入所後、企画室長、鉱床部（現鉱物資源部）長、工業技術院東北工業技術試験所長を経て1989年（平成元年）8月に所長に就任されました。この間、鉱床学、花崗岩岩石学などの分野で独創的な数多くの研究成果を発表し、1989年には、この分野の世界的学術賞である

SEG (Society of Economic Geologists) Silver Metalを受賞されました（地質ニュース、1990年1月号）。今後は、我が国の科学技術政策の指導者の一人としてご活躍されることを願ってやみません。

この異動に伴い、地質ニュースの編集委員長は佐藤が勤めさせていただきます。交代に際し、地質ニュースへのこれまでのご厚情に感謝申し上げるとともに、今後のご指導、ご鞭撻をお願いする次第であります。

